

新濟卷二番

②

浪

庫文閣内			
一五二函架	三九二册	三三二九號	和書類



内閣文庫	
番號	和 32569
冊數	394 (222)
函號	152 121

安永三年七月五日

田代平左衛門房越前

西丸沖緩物方

新沖番水野勝五郎組 言後 田代傳登正新

同日誓のうらみ平後と足しあふ
作とある

安永又申年四月日光の沙供徳人の
安永六酉年二月廿二日大沙供徳
の狩子小僕しと時後ニと経家
天明四年三月廿四日官中めし
相番仇野長備の政言田代山城守

意知郡長不又傷せしと我國列
め何の事なりと云ふ事あり

天明四年四月七日小善後入徳母常力支死
同日加納遠江守久曾郡長の郵舟
石子舟にて去し九日佐野郡長舟
狂疾めし田沼山縣守め又傷せし
此を捕留せし先守り川せし書後
舟入る家の音作舟より此の日
籠居の事細ひしと云ふ事
あり

同年五月六日藤居と虎了り
寛政三年正月三日虎了りして

年始の抄書不出て洋湯を
寛政三年十月廿四日舟に
寛政四年四月七日致仕髪之刺で
松隠と云

安永三年七月五日

新井藩水野勝之助組

宮重七郎信志

二言後 拂方御前

後久松

同日惣れうらみ平儀と足し

安永又申年四月日光の湯佐藤

世長令

安永六年三月廿二日大の湯佐藤

対し小儀

安永七年二月廿日大の湯佐藤

対子に候しつ時後ニと候事
安永九子年十月三日大の沙院の
対子に候しつ時後ニと候事
天明元丑年正月四日宇森田乃
造り（所放書寫の時沙院ら如候
しつ時後同月九日真申に
りつ時後ニと候事
天明二寅年二月四日大の沙院に
対子加りつ時後ニと候事
寛政二戌年九月廿二日大の沙院
の対子に列しつ時後ニと候事
寛政六亥年九月廿九日大の沙院

寛政八辰

の対子に列しつ時後ニと候事
寛政七卯年九月廿八日大の沙院に
対子に候しつ時後ニと候事
年二月廿一日新洲並組頭
寛政九巳年三月八日西城井組
新洲並組頭
文化七辛年十二月八日西城井小十人
頭
同年同月十六日布衣著と免す事

安永三年七月廿日

多の庄平三峯書子

大津右衛門河波吉組

新津書水野勝五郎組 二番 多の庄平三峯書子

同日惣先のうちみ平後とさういふ
作とさういふ

同年同月廿六日大川あし水馬書院
河川で明の廿三日菅中になつて
黄令二と書家

安永四年九月廿日大の庄後
村子に列し時後と書家

安永^中六年四月日光の寺とて
あるの寺を去るの寺令二千五百と
法家

安永七^成年二月十日大的寺焼
て時後^二と法家

同年四月廿日草庵寺焼ありて
猪物^二と法家

天明元^丑年七月九日大坂御破損なり

同年十月初日寺焼英令^一時後^二
と法家

天明六^午年七月亥^一年^二

同年十月朔日寺焼英令^一時後^二

と法家

天明七^未年二月十日大坂宮舎死

又十七家

正色^一殿と寺高津の養徳寺に
送家

安永三年七月五日

山下清才元高忠子

大洲安永井修徳守祖

新洲書水野勝太郎組 三言俵 山下弥左衛門元亮

政長重の

同日惣のうら又十俵と足し一り

三言俵

安永又申年四月日光の沙汰又遊六

姓去合群と修家

寛政元年四月六日死二十六歳

安永三年七月五日

小池豊右衛門貞刻養子

小十人山中平吉組

新洲番水野勝三郎組

三言像 小池甚忠房亮方

安永又申年四月日光の沖供小随

一と母妻合_{三十一}と給_{三十一}と沖先番と

勢心

天明七_未年十二月廿二日辨入金田近江守

支配

寛政四_子年八月三日致仕蟻山と云

安永七戌年六月四日

新沖藩駒根肥後守組

信野傳套(改豐)政言

依野傳套(改豐)政言

大沖藩本多澄路守組

安永八亥年九月廿二日大の浦後の

討手小別して時後ニと信言

同年十月十日跨討浦後河川で

哨の十二日當中に召し合はせて其合_二

と信言

安永九子年八月廿七日跨討浦後

河川で器物_三と信言

天明三年三月廿六日大向沙袋の
射多不列と時後ニと経日

天明四年三月廿四日宿屋中

一將新當所茶と少老田原守

意知那臣居出らさし一法政言追

引て又傷み及し程疾小極まら

獄屋小り

天明四年三月三日切腹

同日評定所小り及して程疾れ

不為とりとも其申とて田原守

意知小又傷せ一先意知と一紙

めと共一事たりれハ切腹と

作出さし色信とは大屋遠江守昌高

傳へて獄屋めと切腹寸検使と

山川中總守貞幹とるに安小信て

又百石と収らさして切腹と

安永七^戌年六月四日

新井藩駒込根肥後守祖

言_二後河橋八右衛門高玄

河橋利常國寶痛疎兼祖
河橋介元言道忠胤
本所安永重隆治守祖

安永七^戌年二月廿日草麻沙院の

對多_二列_一と瑞物_二と_一と_二後_一

安永九^子年正月十日沙弓場始れ

村_二列_一と_二時_一後_二と_一と_二後_一と_二時_一

宮中_二列_一と_二時_一後_二と_一と_二後_一と_二時_一

天明三年十二月廿六日死之十一歳

安永七^戌年六月四日

松波淡三郎貞喜書

大洲松波傳守組

新洲藩駒松後守組 三言後 松波十右衛門貞恒

安永九^子年十月三日大の涉後の

射子如候 一々時後ニテ終リ

寛政九^己年十二月十三日言内後篇

の郵敷火如のり

文化四^卯年七月六日老祥賜賞令及入逸見
友近支配

安永七^戌年六月四日

左記專助三英惣願

西元十八人六方字源蓋証

新津藩駒森根肥後守組

言後古 矢部惣後正方

改 主 信

寛政元^百年十月三日大の法後の

村多列し之時後ニと経る

寛政四^子年四月廿日武術法後にて

器物ニと経る

寛政九^己年四月朔日新津藩組改

文化又辰年四月十五日津汽願

同年十二月十一日布衣署と免す

文化八年 月 日 死六十案

安永八年 四月十六日

山本武彦 政辰 喪子

西元新津 安牧野 式初組

新津 善駒 在 賴 肥 後 守 組 三 言 儀 山本 興 右 衛 門 政 博

天明元 年 四月 廿 六 日 西元 新津 善 駒 松 平 大 隅 守 組

安永八_亥年四月十六日

牛奥三_子信昌_子芳貴_子

西元新治_{松平}祖馬吉祖

新治藩助松根肥後守祖

三言吉

牛奥忠友_{信昌}房

安永九_子年十一月十六日_{沖具足奉}行

天明二_亥年八月廿三日_死卒九_家

安永八年四月十六日

小林六郎右衛門 兼芳 願

西丸新沖書松平組

新沖書駒在根肥後守組 言後 小林六郎右衛門 政房

天明元^丑年四月廿六日 西丸^新新沖書松平

組馬守組

天明元^丑年七月六日

白井忠次郎尊利若子

本所家青木甲斐守組

新中番越川相模守組

言後

白井主税利庸

後七郎若子

同日勢のうち又十俵と足し一より
作とさる

天明四年四月七日小菅後入長谷川利十郎

支配

同日加納遠江守久松組長の郎小菅
て去一丈四寸お番依野若倉の改言
田沼山藏守意知の言申中て又傷

せし時同し座ふりなう改言
と抱留せし是子う川て小善居入
作出さ家

寛政三亥年正月三日於此乃
ふとく年始の想渴と免さして
出仕守

寛政八辰年二月二日本州中坊
河内守組入

天明元^丑年七月六日

後養老帝経言典順

栗半人奥村卷言典組

新井青地川相換守組 二言奉後養清在邊心能

寛政四子年七月廿一日麻布の火
災ありて麴所清水谷の邸敷少ふ
かた

寛政十年年九月六日死六十六歳

天明二年八月九日

松崎六郎左衛門俊辰吉子

大津敷本堂伊豆吉組

新洲番港川相換守組 言儀 松崎熊三郎俊傳

同日勢免のうち二十俵と足る
御とるなり

天明二^寅年八月九日

依格年助佐孝正の子

本州^{本州} 依格守組分
東川紀伊守組領

新洲番越川相模守組

名 依格織部佐保

改依格守

天明八^申年二月十二日大御沙院
の對多ふ加り川にて時後ニと給ふ
寛政六^丑年三月七日大御沙院の
對多ふ加り川にて時後ニと給ふ
寛政七^卯年三月廿日小令所將
の將建切惣子と惣先
寛政八^辰年十二月十八日小松川の

多し、一、沖放、置れ、時、沙、供、ら、に
候、一、事、に、多、ハ、村、留、守
寛政十二申年九月晦日、大、雨、時、後、
の、村、に、加、り、川、で、時、後、と、候、事

天明二宮年八月九日

服室新八市昌友惣願

大湯島西郷美枝守組

新沖藩荒川相模守組 三、儀、服室三市昌友春

同年同月十八日、濱、小、て、時、対、沖、説、多、て

陽物^三と、候、事

同年十月二日、時、対、沖、説、者、て、明、の、三、日

當、中、小、百、道、て、黄、令、^二と、候、事

天明四年、年、正、月、十、日、沖、ら、陽、島、の、村、に、小

列、^二と、時、後、^二と、候、事、明、の、十、二、日

當、中、小、百、道、て、黄、令、^二と、候、事

同年三月十日駱射沖洗有て器物^ニと終^ル
同年九月晦日大的沖洗の射^ニに列^{して}
時^ニ終^ル

天明六年九月廿八日大的沖洗の射^ニに
列^{して}時^ニ終^ル

天明七年正月十日沖ら場始の射^ニに
列^{して}時^ニ終^ルぬの十日營中^に有^て
黄令^ニと終^ル

同年二月六日大的沖洗の射^ニに列^{して}
時^ニ終^ル

同年二月廿七日^に田馬場^にて^て
沖洗^らの面^に大的沖洗^有て^て羅沙^一編^二

と終^ル

同年九月二日駱射沖洗有て器物^ニと終^ル
同年十月十四日同一業沖洗有て明の十日
營中^に有^て黄令^ニと終^ル

寛政元年正月十日沖ら場始の射^ニに
列^{して}時^ニ終^ルぬの十二日營中小
有^て黄令^ニと終^ル

同年十月三日大的沖洗の射^ニに列^{して}
時^ニ終^ル

寛政二年十月十日小落の遠^り沖放
射のとき沖供^ら小候^{して}多^く射^ニ
と先^同一日營中^に有^て時^ニ終^ル

と終る

寛政三亥年十月廿二日笠掛沖流有く
瑞物^ニと終る

寛政五丑年三月七日大の沖流の対^ニ不
列して時後^ニと終る

寛政七卯年三月八日小倉沖将乃と我
立功獅子と誓免

同年九月廿八日大の沖流の対^ニ不列して
時後^ニと終る

寛政十年三月十四日大の沖流の対^ニ不
列して時後^ニと終る

享和二年二月廿六日大の沖流の対^ニ不

列して時後^ニと終る

同年四月廿六日大軍流釵形沖流有て
瑞物^ニと終る

文化元子年十月十日大の沖流の対^ニ
不達りて時後^ニと終る

文化四年三月廿日大の沖流の対^ニ
不加りて時後^ニと終る

文化四年四月廿日新沖番組既

文化六年八月七日新入朝比奈河内
支碓

天明四年六月十七日

保々高之助貞敏

大津藩主保々高之助

新津藩廻川お模守組 四番 保々高之助貞敏

改七番

文化六年八月十六日新津藩廻川

天明四年六月十七日

松浦八郎丞勝高懸願

本印者 本庄住持守組小
小糸安房守組上代

新井藩越川相模守組 五右衛門 松浦八郎丞勝高懸

寛政三年七月五日禱入内及甲斐守支配

寛政六年三月廿日中里にて

系馬沙流物り

天明四年六月十七日

役樂大助能柯製願

大井書多富信濃守組

新井書塔川相換守組

昌平後

役樂十市久造門能荷

同年九月晦日大の涉境持討手に

加多川にて時後ニと給旨

天明七年八月三日祥入水野大膳支配

天明四年六月十七日

儀我小左衛門定實守組

大和安久留信濃守組

新洲番耗川相換守組 三言儀我岩三郎定經

寛政四年三月六日大の沖渡り

村多小左衛門時後三守組

寛政九年三月廿六日大の沖渡り

村多小左衛門時後三守組

享和二年二月廿三日大の沖渡り

村多小左衛門時後三守組

文化元年十月十日大の沖渡り

対系不加^三月^二時^後ニ^三終^リト
文化四年三月廿六日^二的^沙後^の
対系に列^レト時^後ニ^三終^リト
文化五年十月廿二日^二死^ニ終^ル案

天明四年^辰年六月十七日

神尾富子^三忠^為國^忠順

小十人^三野^衣倉^の組

新津番^三荒^川守^組 四^百石 神尾倫^三助^為祥

天明七年^未年三月廿六日^二死^ニ終^ル案

天明四年六月十七日

林平定武那若子

西宮主人由良殿

新津書院川お模守組 云々 林熊次郎元義

天明八年二月十二日大の沙汰の

対子不列し時後ニ結ぶ

同年四月廿二日対沙汰ありて

端物ニ結ぶ

寛政二年九月廿二日大の沙汰

の対子不列し時後ニ結ぶ

同年十月廿六日対沙汰ありて

明の廿七日當中に在りて黄金二枚

寛政五年九月十三日死二十四歳

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

天明四年六月十七日

本多頼母没後遺願

小室源兵衛久三而亮

新井番越川お模守組

五郎 三郎 四郎

本多権左衛門政経

天明六年二月六日本々湯茶の水に
郵敷火ふかり

天明七年九月十三日草麻御流
り川で瑞物二と結家

天明八年二月十日大的涉流の
討多列し時後二と結家

寛政四年二月六日大的涉流に

対子不列之時後ニシテ家

寛政元年六月廿三日

新津藩横田大和守祖

右田助助昌重孝子

右田邊友右衛門

三百年後

太田孫兵衛義徳

改修

同年九月廿六日終対涉後ありて
贈物ニシテ終

寛政二年九月廿三日大の涉後
の対子不列之時後ニシテ終家

同年十月廿七日終対涉後ありて
唯の廿八日當中に石子色にて黄舎ニ
ニシテ終家

寛政十一年九月廿六日大御沙後の
村多不列して時後ニと後家
享和二年十一月十三日千住の邊り
一沙放鷹の時沙供ら不儀して
多村留同月十二日當中に死して
時後ニと後家

寛政元酉年六月廿三日

高井元次郎真方惣順

大洲邊遠衣守野吉組

新洲番横田大和守組 言奉儀 高井元次郎真方

寛政二戌年六月六日死二十三歳

寛政元年六月廿三日

三田久庵の守莊懸願

小善法祖酒井國徳守託

新洲藩横田大和守祖

再勅

三田次而吉守清

同年十月三日大の沙院の對子に
列して時後ニと候事

寛政九年二月廿六日大の沙院
の對子加り列して時後ニと候事
享和二年二月廿六日大の沙院
の對子に列して時後ニと候事

文化二年十月廿六日大の沙院に

討手不列之時後_二子孫家
文化六己年十月二日大納言淺井
討手不列之時後_二子孫家

寛政元_四年六月廿二日

三田助十市守保熟所
小巻信組松平組馬守亮

新洲番横田大和守組

再勅
三田長之助守防
改安老清

寛政八_辰年七月二日拜入堀田之膳支配

寛政元年六月廿二日

河内守市郎氏燭照

小室信雄河内守氏

新井書模田大和守組 三言 河野久左衛門通義

寛政九年四月 日輝入龍川長門守氏

寛政二年八月廿九日

小笠原常乃貞英惣願

新洲書松田古様子組

新洲書松田大和守組

三石

小笠原九郎貞卿

寛政九年四月廿六日死入子孫

寛政三^亥年四月七日

六ヶ市^市政^方願

新洲^書坊^教馬^組

新洲^書坊^田大^和守^組

三^言儀

六^郷友^右邊^政真

寛政九^乙年三月八日西丸^組新洲^書坊^松平^組
侶^之元^組

寛政三年四月七日

青木信俊の信也出子

新津書院敷馬組

新津書院田大和守組

三右衛門

青木八十市信孝

寛政四年七月廿日麻布の火災

あゝ喜ぶ處所信地の郵敷火災

かゝる

寛政九年三月八日西丸新新津書院松平信之允

組

寛政三年四月七日

大保八左衛門永久惣願

新洲書院教馬組

新洲書院横田大和守組

旨依

大久保八次郎忠幸

寛政四年十月廿四日拜入酒井純守守支配

寛政^五六年十二月廿日

澤谷之丞實房書

小入竹田吉十郎

新井藩横田大和守組

澤谷次郎實茂

後百子依

後谷之丞

同日勢のうち並のいしく二百子依
の言ふなりしを控作をさすなり

寛政六年正月廿九日御ら場始
の對多小儀して時後ニと結を明の
晦日言申に百子依して實合及と結
同年九月廿九日大的沙院の對多に
列して時後ニと結を

寛政七年九月廿八日大御所御
封手加増御時後ニシテ

寛政九年八月四日跡目百五十俵

乞込御所料ハ一ノ一ノ御所

寛政九年七月十七日御小納戸

同年十二月十八日布衣着ニ免コル

六月廿一日病不_レ収
寛政六年六月晦日

山田左衛門 重昌 兼順

南_レ田_レ豊_レ不_レ吉組

新_レ沖_レ着_レ横_レ田_レ大_レ和_レ守_レ組
又_レ合_レ若_レ 山田左衛門 重清

寛政七年四月廿二日武部清純

以_レ月_レで_レ瑞_レ物_二と_レ終_レ了_レ

寛政十年三月十四日大_レ的_レ沙_レ院_レの

射_レ手_レ如_レ列_レと_レ時_レ後_二と_レ終_レ了_レ

享和元年三月廿一日死二十一歳

寛政九年^{己未}七月廿四日

略名左膳云明然願

西元十八年^{本末}後寺組

新津藩横田大和守組 隈番若 略名其之助心盛

寛政十二年^申九月晦日大の涉後乃

の射子に列して時後ニと後也

文化四年^卯年二月廿日大の涉後乃

射子に列して時後ニと後也

文化九年^申年二月廿四日大の涉後の

射子に列して時後ニと後也

寛政九^{乙未}年^閏七月廿四日

小林平十郎正有繁願

大洲書屋野三夜吉組

新洲書屋横田大和守組 三夜 小林孫三郎正時

同日惣先のうち又十夜と云々
りし作と云々の

寛政九年七月廿四日

寛政八年十二月二日

新市番横田大和守廻

岩田平兵衛忠養子

表所祐筆

三右衛門 岩田徳兵衛高德

寛政十一年九月廿六日大向沙流の村

列して時後と結糸

寛政九年己未十二月廿三日

松平近衛宗金書

小善清組仙石派急務之配

新沖書横田文和守組

再初

二言後

松平赤平次宗配

同日惣免持うら又十後と是し
作と家取

寛政十年^辛年三月十二日

星田源三左衛門正甫殿

大御所御前御用

新洲藩後田大和守御 御用 星田源七郎正意

同日暫免のうちに百四十俵と長

き作とある

寛政十年三月十三日

小池八三郎吉三郎

大津書中坊近江守組

新洲書中坊大和守組

言卒後 小野次三郎高茂

寛政十年十月十六日

山角文左衛門定周致願

御縁物方

新洲番横田大和守組 四石 山角頼母定好

寛政十年年十月十六日

石野主水廣通

大津安房後継者組

四百三十一

新津藩横田大和守組 言若 石野主水廣通

寛政十一年九月廿六日大御沙汰

力対子小列し時後ニと終る

享和三年三月十六日大御沙汰の

対子小列し時後ニと終る

文化二年三月廿二日大御沙汰

の対子小列し時後ニと終る

寛政十年十月十六日

山寺左門信成書子

大津中坊河内守組

新井藩横田大和守組

三百五十
六名中

山寺甚右衛門信義

享和元年十月晦日

宮村傳吉は郷貴子

小十人三宅助之九組

新井藩朝比奈河内守組

言七後宮村之左衛門利屋

後三喜久

同日勢のうらち三十三俵と足一

多し俵と足あり

文化元年十月二日

松波六郎昭照題

大洲安友信謙書

新洲藩朝比奈河内守組 六郎 松波久八郎重和

文化元子年十月二日

松浦弟三帝成室皇子

西元十八荒井寺齋壇

新神嘗朝武内守祖 三言後 松浦岩次帝成武

文化二五年十月廿六日大御沙流乃
射子不候して時後ニと後也

文化五辰年三月廿二日大御沙流の
射子に加る河で時後ニと後也

文化七年十月廿九日大御沙流に
射子に列して時後ニと後也

文化十戌年三月廿四日大御沙流の射子

列して時後ニ送る
同年十月廿五日龜有の参り
御政務の時沙汰らる候し
多野同月廿七日参申の事
時後ニ送る

文化二年十月十日

寛平九年の時後子

西九所腰物方

新河内守組 千石 寛 平 美 正 陽

文化二年十月十日

山田左衛門重之丞子

大津藩永井大和守組

新津藩朝比奈河内守組

三信

山田七郎右衛門重良

文化二年十月晦日 拜入 根来松内支配

文化二年十月十日

大沢合孫雄道忠願

大澤家建部内通延組

新津藩朝家河内守組

言候大澤吉茂様書

政六郎

文化二年三月廿二日の沙汰の
封子に列し之時後ニテ候事

文化三年十二月廿日

室敷地帯正通子

大津安江守組

新津藩七波信濃守組

百平儀 国部七市正通子行

同日替れらる百平儀と是しあふ
作さるる

文化三年十一月廿日

久保公直の孫別表子

大井直末の水心組

新沖藩去波信濃守組 三右衛門 久保々茲勝貞

同日惣免のうち又三右衛門と是し
作

文化_{又辰}年四月十六日

源尾_辰帝元長_{貴子}

大御_貴女_多大_陽吉_祖

新_御書_去波_信濃_守祖_三言_後源尾_辰帝元親

後_無書_常

文化_{六己}年十月二日大_的涉_後の

射_身以_列之_時後_三之_終也

文化又^辰年十月廿七日

河内年令職魚願

本州安巨勢日向寺組

新沖書云夜信濃守組 四聖依 河内年人常照

文化七年十月廿九日大の清鏡の

村手列し時後ニと給家

文化^{乙辰}年十二月廿七日

久保淡次而緒成貴子

西元十八百川知奮組

新沖藩去波信濃守組 三喜 久保之文而勝經

後平三郎

文化九^申年二月廿日官大的涉流乃

射手^久候^一之時被^二と給^一と

文化十四^丑年三月十日大的涉流乃

射手^久列^一之時被^二と給^一と



